

区 分	内容と対応方針
会議の公開	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の透明性、意思決定のプロセスの理解等、市民に対する説明責任を果たすため、本委員会は、「京田辺市審議会等の会議の公開に関する指針」を適用し、会議を公開とする。
計画の策定方針	<ul style="list-style-type: none"> ・市民満足度調査では、本市に住み続けたい理由として「自然環境」が良いとする意見が最も多い。 ・市としてこれまで手薄であった「自然環境」の保全を重要な施策目標と位置付けて、本計画で重点を置いて、検討を深めていく。 ・ごみ問題や地球温暖化問題については、既に市としてレベルの高い検討がなされており、策定済みの「地球温暖化対策実行計画」「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」「分別収集計画」と整合を図りながら、本計画に記載していく。 ・総花的な計画とするより、行政と市民の連携等の観点から、実際に本市で見られる環境問題の解決につながるよう、踏み込んで検討していく。
着目すべき環境の状況・課題	<ul style="list-style-type: none"> —生物多様性の危機— ・アライグマ等外来種による希少動物への影響、タイワンシジミ等外来生物の生息拡大、ナラ枯れ被害の拡大等が課題となっている。 —甘南備山の優れた生態系— ・過去に生態系についての調査が実施され、貴重な動植物が確認されており、本計画で注目を高めるべき環境として着目する。 —農地保全上の課題— ・農家の高齢化が進み、中山間地域をはじめとする農地の保全対策が必要である。 ・本市の農地を保全していくため、国の農地集約の動きとは別に、若年後継者や定年帰農者の受け入れ、付加価値の高い農業の推進等が求められる。 —空き家の状況— ・農村部での空き家は、まだあまりない状況である。 ・都市部の地区等では高齢者の単身世帯も多く、将来の空き家増加も懸念される。
状況把握、情報収集の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・配布済みのアンケート調査では不十分であり、市内の専門家等にヒアリング調査を実施する等、「生物多様性」（希少動植物・外来生物・農作物等に対する獣害・ナラ枯れ）の情報収集を充実し、的確に分析を行う。 ・市内の様々な課題（休耕田の拡大、竹林の拡大、高齢化の進行、空き家の状況等）について、地域ごとの状況が分かる形で整理する。 ・人口の変化だけでなく、年齢構成（高齢者割合等）の変化についても把握する。
環境活動の推進体制	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の実態を継続的に把握するために、市民を巻き込んだ観察会を定期的実施する等、仕組みづくりが重要である。 ・環境活動の実働部隊として組織された、環境市民パートナーシップとの関わりが重要である。 ・各団体間で、横の連携が図れていないことが問題である。 ・地権者とボランティア団体とのコーディネート等、現地の第一線で活動している団体と行政の協力関係等を強化していくことが求められる。 ・環境保全活動において、市民団体やボランティア、また事業者が連携した活動を行っていくためには、一定のルールと仕組みが必要である。